令和５年度第３回岡山市総合教育会議

日時：令和６年２月13日（火）

場所：市庁舎　第３会議室

午後３時29分　開会

○司会　定刻となりましたので、ただいまから令和５年度第３回岡山市総合教育会議を開催いたします。

本日は、全員のご出席をいただいておりますので、会議は成立しております。

傍聴の希望がありますが、入室の許可をしてよろしいでしょうか。

○市長　よろしいですよね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○市長　では、お願いします。

○司会　では、傍聴者の入室を許可します。

〔傍聴者入室〕

○司会　それでは、協議事項に移らせていただきます。

議事の進行は、招集権者である市長にお願いしたいと存じます。

市長、よろしくお願いいたします。

○市長　はい。それでは、次第に沿って議事を進めます。

本日は「岡山市が目指す子どもを育てるために」に関して報告していただき、それらを踏まえて今後の課題等々について議論していきたいと思います。前回に引き続き、岡山市中学校長会の溝手会長、岡山市小学校長会の平井会長、岡山大学大学院教育学研究科の髙瀬教授にもご出席をいただいているところであります。３名の方の幅広いご意見をいただければと思います。

まず、資料に沿って教育長から説明をお願いいたします。

○教育長　はい。失礼します。今日、資料１、２、３、そして参考資料１、２、３と６枚資料を用意しております。

第２回の総合教育会議での議論を受けて、事務局と校長会、大学で議論してきました。

まず、資料１ですが、令和７年度末の目標、指標の達成に向けて、中間期である現在の状況をまとめたものになっています。確認のために、第１回総合教育会議、２回目の会議の指標も掲載しております。

今回新たになった状況については、力の指標、体力の状況が明らかになっておりますので、資料２で説明をしたいと思います。

資料２をご覧ください。

協力と人を大切にできるという新たに判明した２つの状況の達成状況をまとめたものです。

これまでの学力を中心とした指標は、社会に出たときに必要な力が付いているかという視点で全国との比較をしておりますが、こちらの指標は岡山市の子どもの伸び率を見る指標としております。いずれにしましても低い数値ではなく一定の状況を維持しておりますが、５年間で５ポイント上昇するという目標に達するにはやや厳しい状況にあると感じています。

下段のところですが、児童生徒への質問項目の相関性を今年度初めて見てみました。小中学校ともに授業の分かりやすさや自己肯定感を高める取組の充実が必要であると考えています。逆に見ると、授業の中での協働的な学びも大切にしなければならないと考えております。前回の総合教育会議の不登校の未然防止に授業の充実が不可欠という話題ともつながっていると考えております。

続きまして、資料３をご覧ください。

そこで、資料３に学校と教育委員会が令和７年度までに特に重点的に取り組む必要があると考えていることと定量的な目標についてまとめております。子どもの良さを生かして、我々が十分に育てられていない弱さに切り込んで、目指す子ども像に迫るものであります。校長会や大学との議論では、社会全体の雰囲気として人と関わることや集団で何かをすることが減少しており、学校に対する期待感も変わってきているのではないかと感じております。

そこで、子どもには、友達と認め合いながら自己の良さを発揮できる集団の良さを実感できるように、特に学校生活の大半を占める授業の中で取り組むことが必要と考え、授業を中心にまとめております。キーワードは３つです。「探究」と「関わり、つながり」は、大綱の目標指標の達成状況から考えました。主体性は、参考資料３の資料から考えました。

参考資料３については、運動習慣についても家ではなかなかできていないというところ。それから、学習習慣も、全国と比べて授業以外に学習する割合が低いと。岡山市の子どもは真面目に取り組み、落ち着いた生活はしているものの、どちらかというと受け身と

いうところ。学校は子どもが主体的に何かに取り組む力を十分に育てることができてないのではないかと考えております。

資料３にお戻りください。

そこで、教員個々には、目指す授業のポイントをキーワードに迫る手段となるＩＣＴの積極的な活用と振り返りの充実として示そうと考えています。

ＩＣＴ活用については、パソコンを日常的に授業で活用することで社会の中で必須のパソコンを子どもが自在に使いこなせる力を身に付けること、教職経験の少ない若い方でも、画一的でなく、子どもに合った進度ややり方で学ぶといった子ども主体の授業ができると考えております。こうした授業をするために、教員が一人で抱えるのではなく、第１期大綱で効果的であった学校のチーム力を最大限に生かしながら進めていこうと考えております。第１期が平成29年から令和２年、第２期が令和３年から令和７年までとなっております。校長が替わっても、校長中心の週２回以上の授業参観は現在も100％行われております。学校のチーム力の高まりを校長が実感しているからだと思います。

参考資料の３に戻っていただければと思います。

④課題がある場合は、校長が率先して話し合ったり、ともに問題解決に当たったりしている。一方で、この結果からは学期に数回の場合もあるなど、課題にすぐ対応できてないということも考えられます。

そこで、我々は、校長を中心とした週２回以上の授業参観、指導助言をチーム力と即効力の観点でバージョンアップしていこうと考えました。このことが、資料３に示しております。

学校の中を校長が週２回以上回っているわけですが、その質の向上に向けて来年度、見直していくことが必要ではないかと教育委員会は考えております。そのことによって、定量的な目標として目指す子ども像に迫っていきたいと。教育委員会としても、毎月ポイントとなる資料を提供するとともに、確実な実施に向けて、学校訪問によって各学校の実態をつかみ、学校と一体となって取り組んでいきたいと考えております。

そうした中で、本日は小中学校の校長会の会長がお越しくださっています。両校長とも、頻繁に授業参観を行い、よい授業について先生方との対応を重ねておられます。本日は、岡山市が求める授業について、特に端末を活用した授業の様子を画像を使って報告していただければと考えております。よろしいでしょうか。

○市長　はい、お願いします。

〇教育長　じゃあ、よろしくお願いします。

〇平井小学校長会長　はい。失礼いたします。芳泉小学校の平井と申します。今日はどうぞよろしくお願いします。

私からは、端末を活用した授業についてお話をさせていただきます。

まず、お話をする前に、端末の効果的な活用について、これは何のためかということを確認しておこうと思います。子どもの力を伸ばすためのよりよい授業をつくり上げるための一つの手段であると思っています。この端末を使った授業について、この４点でお話をさせていただきます。まず、１点目は授業での端末の活用の良さ、２点目は授業以外で朝の様子、３点目が成果、そして４点目に課題を述べたいと思っています。

まず、授業での端末の良さについてお話をします。

端末の活用で授業がどのように変わるか、これは大きなポイントだと思っています。それは、まず子どもから見ると、学習時間が効果的に使え、考える時間が充実するということが挙げられます。２つ目、データの共有で考えが広がるというポイントです。続いて、先生から見ると、子どもたちの考えの把握により授業の質が高まる、このポイントが挙げられます。この３点について詳しく見ていこうと思います。

まず、学習時間が効率的に使え、考える時間が充実するについてですが、活用なしと書いてあるのは端末を使ってない授業、活用ありと書いてあるのは端末を活用した授業です。活用なしのほうは、先生が黒板に板書というのをしていきますが、授業の内容を書いていく板書や教材提示装置でノートを映したりして子どもたちが発表をしたりしている通常の授業です。下のほうは、ソフトを使って子どもたちが考えを書き込み、端末の画面でそれを共有するといった授業です。活用なしのほうでは、先生が黒板に書くのに時間がかかったり、１人のノートしか提示することができなかったり、子どもたちが順番にしか意見を言うことができなかったりという課題があります。一方、ソフトを使いますと、全員で瞬時に意見が共有できること、複数の考え方を画面で共有できること、自分の席で自分の端末を使いながら、私が今説明をしているように説明ができること、こういうことが挙げられます。

これが今までの授業の様子です。子どもたちは真剣に友達のノートを見ながら考えを深めている様子です。

これは、端末を活用しながら友達の意見に対して書き込んでいる様子です。友達の意見が瞬時に画面に表示されることから、友達に対する意見を即時に書き込むことができ、子

どもたちが自分で考える時間を充実させることができようかと思います。

５年生の「枕草子」の授業で、「春はあけぼの」という考えについて、子どもたちが今の感性で書いている様子。次に、夏、そして秋、冬と子どもたちが現代の言葉で書いている様子です。それに対して友達が意見を書き込むことができるので、自分の書いた内容をさらに深めることができます。今までですと一人一人に意見をもらった上でこれを書き込んでいたのですが、それが瞬時に分かるといったよさがあろうかと思います。

４年生の社会で、都道府県名それから県庁所在地名を４年生は覚えることになっているのですが、これをクイズ形式にすることによって、子どもたちが一生懸命クイズ形式で都道府県を楽しみながら覚えることができるという取組を行っています。学習時間が効率的に活用できており、考える時間が充実すると思います。

２つ目は、データの共有で考えが広がるということです。

今までの授業ですと、主に同じ班の子どもが意見交換をしておりました。端末を使いますと、クラス全員の意見を表示でき、意見交換が可能になります。今までの授業で、ほかの班の子どもたちから助言をもらいにくかったりとか、多くの意見を共有するのに時間がかかっていたりしました。それが多くの意見を瞬時に見ることができますので、考えの幅が広がったり、誰にでも意見を求めることができる、これが端末の良さかと思います。

音楽の授業で、演奏の様子を端末で撮影し、それを共有している場面です。今までですと演奏した様子はすぐに消えてしまいますが、端末に録画することで、端末の録画を見ながら感想を書くことができます。これもデータを共有することの良さの一つだと思います。

理科の実験の様子です。今までですと班ごとに実験結果をまとめ、この実験結果は下の３つが何らかの結晶が出ている様子、ほかの班では下の２つだけが何らかの結晶が出ている。これは、右側の２つが何らかの結晶が出ている様子です。今までですと自分の班しか見ることができなかったので、最初の班の子どもは結晶は３つだと。それがほかの班とデータが共有できることで、やはり２つではないかというような話合いが深まってまいります。このようにデータを共有することで、自分たちの考えだけでなく、ほかの班の実験も参考に幅が広がってくると思います。

３つ目は、先生の立場からですが、子どもの考えを把握することによって授業の質が高まるということです。

机間指導といいますのは、先生が子どもたちの間を回って授業の様子を確認する指導で

す。写真は、主にノートを確認する様子ですが、今まで授業では、先生が机間指導で子どもたちがノートに書き込んでいる内容を把握しておりました。それが子どもたちの考えを全て先生が覚えていて、それを授業に生かしている。それは、より専門性が求められるといったところがありました。端末を活用しますと、子どもたちの考えをソフトの一覧機能で瞬時に把握できますから、子どもたちの考えをその場で確認しながら授業を進めることができます。多くの職員が同じような授業を実現するということも可能になってくると思います。

これは、職員が子どもたちの書き込んでいる様子を確認している様子、通常の授業です。それが、子どもたちがこれは地図とか教科書を見ながら学習をしたことを書き込んでいっているのですが、教師は前で子どもたちがどんなことを書き込んでいるのかを確認して子どもたちを指名する、当てる順番を考えることができます。そうすることで授業の質が深まったり高まったりするといったことが挙げられます。

では、このようなソフトを使うことで子どもたちにはどのような力が付くのかということをお話します。

ソフトを使ってデータや画像を一度に見せたほうが効果的な授業の場合、それを使うことで子どもたちに力が付くと考えられます。そして、思考の幅が広がり、これ、先ほどの５年生の国語の授業ですが、一番下のところの丸印のところ、他の班の作品も参考にすることができます。意見をもらえるし、他の班の作品も参考することで、自分たちの班のより良い作品をつくり上げることができます。

続いて、意欲、主体性が高まるといったことです。

これは、先ほどご覧いただきましたが、４年生の社会科、都道府県クイズです。このクイズをすることで、子どもたちは意欲を持って都道府県の名前を覚えることができます。

さらに、学級全体でデータや画像を基にコミュニケーション力が増すといったことも挙げられます。

これは小学校４年生の国語の授業で、書き込んだ作品をお互いに読み合っている様子です。データを送るだけではなくて、タブレット、端末の横にいてお互いに意見を交流することも可能です。

さらに、これはこども園と５年生の交流の場面です。幼児に送るためのプレゼント、シールを作っているところですが、１枚の画像を基に、どんなシールを子どもたちが喜ぶのか、そういうことを確認しながら作製をしているところです。

さらに、６年生の総合的な学習の時間では、友達に直接助言をもらうこともできますし、データで書き込んでもらうことも可能になります。

続いて、中学校の様子を溝手が説明いたします。

○溝手中学校長会長　小学校の今の報告と重なる部分もたくさんありますが、まず意見やアイデアの共有することで活用が進みます。班で意見をまとめて発表するとか書き直しが容易にできると。このタブレットを使うと書き直しが容易にできるというのは非常に利点でございまして、それができた上で班のまとめをして、クラス全体へ出て、意見交換なり、いろんな自分の考えが広がるというようなことにつながります。

続きまして、理科の光の屈折の学習なのですが、一人一人に応じた学習もできます。これは班で利用しているところですが、この後、挙手して発表することだけではなくて、自分の意見を書き込んで回答することで、班の考え、自分の新たな考えというのができて、後でフィードバックができる。自分の考えがこうだったなとか、あるいはもうちょっと深まった部分があるなということ。それから、一人一人の回答が教師もすぐ目にすることができるものですから、教師も一人一人の理解度に合った指導ができることで、非常に便利に使わせていただいています。

続きまして、これは総合的な学習の時間です。まず、写真などの視覚に訴えることが非常に、簡単にできるということ。それから、教師がここへ自分の意見を書いていくことによって、教師が生徒の思考を視覚化できる。リアルタイムで、生徒が考えていることが分かるというようなことで、次にどのようなことを生徒がしようとしているのかとか、それが予測できるというような報告も受けておりますし、まとめや表現する活動において生徒たちの授業に向かう姿勢が高まったというようなことも報告していただいております。

続いて、音楽で、教員が動画を配布して生徒に見せている場面なのですが、これは生田流という琴の流派の爪のつけ方を勉強している場面です。爪のつけ方や弾き方、それから動作を教師が撮影して、それを一回一回子どもたちが見直すことができる。爪をつけるときには、押さえ込むのではなくて、今はマジックテープで留めるようなものがありまして、反対につけたりする子もいるのですけど、そういう間違いも起こらなくなるし、何回も見直すことができます。弾く場面ではうまく弾ける子もいればうまく弾けない子もいるので、そういう場面では何回も見直せるというのは非常に大きなことです。もう一回見直せる。進める子はどんどん先に進めるというようなことがあります。

続いて、保健体育のマット運動です。これは私が実際に本校で見た授業ですけど、自分

の動きを見ることは基本できません。マット運動で先生がここへ手をつくとか、ここで腰を持ち上げるとかいうことを指導しているのですが、それを録画して、すぐその場で再現できるというのは、子どもたちにとって自分の姿が見えてないわけですから、教師が指導していた腰の位置とか関節の使い方などを、非常に捉えやすくなって、自分の様子が見えるのは大きな効果が上がっているなと感じています。

以上です。

○平井小学校長会長　続いて朝の様子です。授業以外でも活用を進めています。

１年生の様子ですけれども、子どもたちは朝学校へやって来たらランドセルをしまって、先生のところに宿題等を出しに行きます。その後に連絡帳を書いて、ここまでは通常の様子なのですけれども、端末を開けている子どもが何人か見られます。何をしているかというと、心の健康観察、自分の心の様子はどうかなっていうようなことを端末に入力をしているところです。これにより職員が子どもたちの心の状況を把握することで、少しでも学校に行きにくい子どもとか調子の悪い子どもを把握できるのではないかと考えています。

さらに、その後は、朝の会が始まる前は自由な時間なのですけれども、子どもたちによっては自分で選んで学習をしている子どもたちもいます。タブレットを開いているということで、このときには結構多くの子どもが自主的に学習に取り組んでいました。

これは通常の音読をやっているところです。音読が済んだ児童から問題を端末で配信し、このように練習をしている。これは漢字の練習をしているのですけれども、１年生が九という漢字を書いているところです。このようなことにも活用できます。一日の始まり、朝のルーティーンを落ち着いて行うことができる。これも端末の効果かなと思っているところです。朝の学習に自主的に取り組むので、学力も自然に身に付いてくる。あくまでも自主的ですが、取り組むということが大切かなと思っています。

続いて、成果に移ります。

１つは、デジタルＡＩドリル。個々に応じた問題が配信されます。学習の苦手な子どもについては下の学年に帰って配信をすることができますので、基礎的なところから順に身に付けることが可能になってきます。

２つ目、思考の幅が広がる。これは、先ほど画像をお見せした感じで取り組んでいます。

それから、意欲、主体性が高まること、さらに学級全体でデータや画像を基にコミュニ

ケーション力が増すということ、これが成果だと思っています。

芳泉小学校では、授業が分かりやすく楽しいと感じる子どもが増加をしていっております。一方で、課題も幾つかございます。

校長会では、端末利用の好事例について情報交換をして、こんな取組ができるというようなことを各校に配信しております。ＩＣＴ活用が得意な教員はいろいろなソフトを使って授業を進めることができますが、一方で端末を使いたがらない教員が一定数いるということも事実です。そういうような教員は、どんなソフトを使ったらいいのとか、子どもたちに使い方を指導しないといけないけれども私には使い方が分からない、そういうようなことを言う教員もいます。

子どもたちは、私たち以上にソフトを使いこなせます。また、小学校でも教科担任制に近い形で授業を行いつつありますから、子どもが端末を使った授業形態に慣れています。あわせて、支援員が支援してくれたりもしますよというような助言をしております。各教員がばらばらのソフトを使っていると、子どもたちはその都度、教員が替わるに従って新しいソフトを使いこなせるようにする必要があります。端末を活用した授業が積極的に推進されるように、私たち校長がしっかり助言をしていこうと現在のところ考えております。皆様のご意見をいただければと思います。

以上で説明を終わります。

○市長　どうもありがとうございました。

ただいまの教育長、また小学校長会、中学校長会の会長さんからお話がありましたけれども、まずは質問があればお願いしたいと思いますが、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○市長　それじゃあ、それぞれまた意見から入っていくと。教育委員の皆さんからお話しいただいて、あとは岡大の髙瀬先生にお話をして、私ももう少しコメントをさせていただき、最後にまとめていくと、そんな感じにさせていただきたいと思います。

どなたからでも結構ですが、石井さんにお願いしましょうか。

○石井教育委員　ご説明ありがとうございました。特に学校現場の具体的な説明をお伺いできて、非常によく理解することができました。

その説明をお伺いして、従来頭の中で考えていたＩＣＴでできることの範囲とかその成果を超えたところで、すごく可能性を感じることが強くできましたし、特に心の把握を今までだったら何となくというところが定量的に分かるようになるところもあるかもしれな

いですし、そのことが最初の教育長のご説明にあった、良さを生かして弱さに切り込む、探究、関わり、主体性にもつながっている部分が多くあるのではないかなと感じました。

一方で全員の方が常に目の前に出てくると、何かできてない人が毎回毎回さらけ出される。それはもう十分お気づきで対策をされているのだと思うのですけども、そういう怖さもあるので、やっぱりすごく気を付けた扱い方というのが大事なのではないかなと感じました。

一方で、私はビジネスの世界で生きているので、ビジネスの世界でどういうことが起きているかというと、これはうちの会社のことではないのですけども、世界で一番車の台数を売っている日本の会社がこの間不正問題で会長が謝罪をされていた会見をずっと見ていたのですけども、その中で一番原因におっしゃったことは、対策を立てなきゃいけないとおっしゃったことは、自ら考え行動できる企業風土をつくらないといけないというふうにおっしゃいました。それは何でかというと、それは現場が上に意見が言えないからそういうことが起こったのだということで、そのことから考えれば、主体性というのは本人はもっているのだけども、その風土で押し潰されているものとしての解釈をされたのだと捉えました。

そういう意味で言うと、先ほどの説明にもあったのですけども、子どもたちはもともと主体性とかＩＣＴのスキルをもっているので、それをいかに生かせる学校の風土とか先生の力というのがやはり求められているのではないかなと感じています。先生方のもう一回スキルの学び直しとかも含めて、今後必要なのではないかなと感じました。

以上です。

○市長　はい、ありがとうございました。

じゃあ、片山さん、お願いします。

○片山教育委員　失礼します。ご説明ありがとうございました。

どんなふうに日常的に活用されて、それが今までの学習形態とか子どもの学びに大きな変革を起こしているということがとてもよく分かって、ＩＣＴの可能性と、それからやっぱり効率的に学ぶといいますか、授業時間の45分ないし50分を無駄なく使うっていうことで、非常に学習の仕方にもすごく影響を与えるのだなと思いました。いろんな学校を見せていただくと、先生方がよくストップウオッチを使われて、３分という時間管理をよくやられていますよね。その中で集中してタイムアウトを意識しながらやるということの、主体的に考えるとか、何かいろんなマネジメントしやすくなるというのもあるのかなと思い

ました。

一方で、子どもたちが書き込みをしたり、それから画面の中で人の意見が見えるというのがいい一方で、話さなくても伝わるっていう、だけども不登校のお子さんでも、もしかしたら別室だったり家庭から授業の様子を見ながら書けるときには得意な科目は意見を書いてみるとか、タブレットを介して子どもたちが意見を交わしているというようなことも教えてくださったので、そのあたりは少し安心した部分もあるのですけれども、社会に出たときに人と関わるということは絶対避けられなくて、あうんの呼吸だとか、人の話を聞いて受けてそれに合わせてしゃべるとか、そういう集団で学校に行くとそういう力を付ける場でもあるので、もちろん先生方はいろいろ気を配ってくださっていると思うのですけど、一人の親として見ると、やっぱり生身で関わりながら、ディスコミュニケーションといいますか、そういった経験をしながら分かるように伝えていく力も引き続き育てていただければありがたいなと感じました。

以上です。

○市長　では上西さん、お願いいたします。

○上西教育委員　まず、感想ですけど、勉強ができる子とか活発な子とかは、もうほっといてもできると。いいなと思ったのは、おとなしい子とか手を挙げにくい子が自分の意見を打ち込んで、主体的にというか、そういう機会が与えられていると。これは本当にすばらしいことだなと思います。やっぱり意見を言うということを前提に聞くのと、ただ受け身で聞いているのって、大分授業の聞き方も違うと思います。私もここでしゃべる必要があると思うから一所懸命聞きますから。全然違うと思うんですね。だから、ボーっとしているのではなくて、しっかり自分で意見を言うというところが、全員にそういう機会が与えられるというのは本当にすばらしいことかなと思いました。

あと、細かい話ですが、マット運動の話が出て、動画で撮って自分の動きを見るとか、すごく本当にいい使い方だなと思って。うまくやれば、自分で見て、さらにそれを直してよくなった自分を見るということもできるので、運動や体力のことが出ていたので、そういう形もひょっとしたら体育とかで使えばすごく有意義かなと私は思いました。

課題のところが少し気になって、先ほどの説明で使いたくない教員の方がいるとかいうことで、支援員もいますよみたいな話が出たりとか、何かばらばらのソフトを使っているからという話があったと思うのですが、そこらあたりの課題をもう少し教えていただいてもいいですか。例えば支援員がいるけどいつもいるわけじゃないとか、何かそういう課題

があるのか、教えてください。

○市長　どうぞ。

○平井小学校長会長　支援員は毎日いるわけではないので、なかなかタイムリーにそのとき必要だというようなときにはいないこともありますので、そこのところは厳しい部分かと思います。

○溝手中学校長会長　支援員さんが来る時間は、中学校も、小学校も一緒かなと思うのですけど、私はもう何を聞くか書いておくようにしていて、来られたときにまとめて聞いています。

○上西教育委員　ありがとうございます。

○市長　よろしいですか。

○上西教育委員　はい。

○市長　門原さん、お願いします。

○門原教育委員　ありがとうございました。

ＩＣＴの良さを見ることができて、知ることができましたけれども、ＩＣＴを使用するのではなくて活用するということがすごく大事で、どこでどのように使うかということをやっぱり考えていかないと、ただ使用した、それが100％だったとかそういうことにはならないように思うんです。教育も今まで不易と流行ということがあるので、もちろんＩＣＴを活用することも大事ですけど、その一方で、ちょっと先ほどから意見が出ていますけど、子どもたちの間を机間指導しながら、表情を見ながら酌み取っていくこともやっぱり、忘れてはいけないと思うのですけれども、そういうこともやっぱり考えての活用にならないといけないかなと思います。

効率的という言葉が幾つか出ましたけれども、効率的ではないところにある良さみたいなものも、子どもが道草をすることがなくなったって、あの道草の良さもあったと、効率ではないところにある良さみたいな、子どもがちょっと一息ついて考えるとか、そういうことも大事ではないかなと思うので、そういうことも考えての活用というものがあったらいいかなと思います。

それから、子どもも先生方も一定のスキルが必要なので、その後をどの辺で担保していくかっていう、１年生でも要りますし、それがどのようにスキルを向上していくかということと、最後、校長先生が自分たちができるだけとおっしゃいましたけど、校長先生は大変お忙しいと思うので、もう校長先生だけの負担にならないように、それこそ効率的な何

か、支援員さんもタイムリーではないということがあったりしますけど、支援チームのような何かあったらいいのかなと。本当校長先生方だけが頑張られるのではなくて、学校内の何か組織ができたりとか、他から力を借りることがあればもっともっとよくなるのかなと思いました。

以上です。

○市長　じゃあ、私から３点お話をさせていただきたいと思います。

まず、第１点ですが、学校のチーム力を最大限生かすということで、目指す子どもに迫るための定量的な目標、実施率100％となっています。これが参考資料の３の④でより具体的に書いているのですね。ちなみにこの話っていうのが、教育委員の皆さん方、第１期の目標のときにずっと議論をしたことであります。それが数字となって表れているのですが、校長さん方が各教室を見て回る、これが実施率100％、週２回行っているというのは、それはすばらしいことだと思うのですが、まずこれを何のためにやったかというところが重要なので。実は岡山市の場合、若い職員、教員が多い。だから、授業に対して慣れないから不安感を持っている。その不安感をできるだけ除去しようじゃないかということでこれは始めたはずなのです。だから、実施率100％はいいのですが、これを見てみると、授業で問題を抱えている場合とか学級の問題を抱えている場合ということで、何らかの問題があるところでの話として、例えば一番ひどいのは中学校の先生の場合、校長と議論したっていうのは月に数回程度以上というのが約半分ということになっている。それは、門原さんじゃないですけれども、校長さんができないのだったら、校長さんに代わる人をちゃんと指名してでも、校長から見ても授業をきちっとやっているような人は多分おられるはずですよね、教頭でもいいだろうし、そういう人とやって、私はこの第１期のときに決めてずっと動き出したものというのをよりきちっと使うべきじゃないかというように思うのですが、これは校長だけじゃなくて教育委員会の議論でもあるので、この点がどういうことになっているのかというのを教えていただきたいというのが１点。

２点目は、少し上西さんもおっしゃったのですが、運動ですね。運動量が落ちているというのは、これはやっぱり子どもたちにとって大きなことだと思うのです。これの対策っていうのをどう考えているのか、その点もぜひ。これも各校長さん、また教育委員会にも関係してくることだと思うのですが、そこの説明があまり明確なものがなかったような気がいたします。

３点目は、皆さん方がおっしゃったＩＣＴなのですけども、実はあした発表しますけ

ど、ＩＣＴの活用、ＧＩＧＡスクール構想というのは我々としてもできるだけの予算をつけて、学校で活用してもらおうということを考えています。考える時間が充実する、考える質もよくなる、授業の質もよくなるということはおっしゃられたのだけど、具体にどういうふうによくなる、どうやって定量的に向上、今のコミュニケーション力の向上とかっていう言葉もありますけど、それをどうやって我々が、市民が判断できるのか。定量的なものって一体何なのか。ここでいう振り返りの実施を100％に、これも重要かもしれないけど、これは何か向上っていうか、学力の向上を言っているのではないですよ、必ずしも。だけど、何がよくなるのか。それをどういうふうに具体的に目標を定めていくのかっていうのが明確ではない。ここの点を、私は、何らかの形で教育委員会、校長会と議論していただいて、数字としてまとめていただくっていう必要があるんじゃないかなと。

この３点を私から言わせていただいて、取りあえず教育委員会ないしは校長会、どなたでも結構ですが、話をしていただいた後、また髙瀬さんにお話をいただき、それからフリーで話し合うと、そういう形にしたいと思います。

〇教育長　いいですか。

〇市長　どうぞ。

〇教育長　はい。３点いただきまして、私も第１期から関わっているものですから、若手の授業の不安など、校長が回るということでスタートしたのですが、やっぱり長年たって、我々の反省がここへ出たのですけど、なかなか回るだけで助言ができてない部分はやはりあると思いまして、改めてここでリセットではないんですが、質を高めていくという元のとこへ戻ってやろうと考えておりますので、先ほど市長が言われたように、校長だけではもう難しいんであればチーム力でやっていこうというところは進めていきたいと思っていますので、また校長会と協力しながらやりたいと思います。

２点目の運動量が落ちているというところなのですが、この体力については私自身も難しいなと思うのが、大体授業は週２時間程度です。そこで精いっぱい汗をかいて頑張ればいいのですが、運動量の問題もあったり、そして小学校でいうと休み時間に子どもが遊ぶっていうのを、業間、昼休みと私が若い頃はもうずっと出てる子が多かったのですが、室内にいる子も多いという状況、コロナの時代でなかなか出れなかったのもあるのかもしれないのですが、そういった実態があります。

対策なのですが、ちょっと私もそこは話をしているのですけど、難しいです。ただ、小学校体育連盟、中学校体育連盟などと保健体育課が連携しながら、運動習慣定着化事業と

いうので、日常的に運動ができるようなチェックシートではないですけど、「運動だんご」っていうふだん体を動かせるような指標いうか、そのようなものを示したりしてやっています。これについてはなかなか難しいところがあるので、今後また検討していかないといけないと思いますけど。

最後のＩＣＴについては、市長が言われるように指標が何か要るだろうというところはあるのですが、私自身としたら、門原委員が言われたように不易と流行があって、やっぱり授業の流れとかやり方は変わらないと思っています。ベテランの先生なんかが特にＩＣＴを使いにくいなとか苦手だなと思っていると思うのですけど、最初、平井校長が言われたように、授業のやり方は変わっていないのです。ただ、手段、道具としてＩＣＴというか１人１台端末が入っているだけで、そんなに大きく仰々しく考えなくてもいいのではないかなと思っています。それによって時間が生まれて効率的になるというのはすごくいいことなので、そのよさだけ分かって、授業は一緒ですよ。ここでこれを使えば机間指導が短くなりますよというようなシンプルに言っていけばいいかなと思っていて。では、授業の質が上がったら何がどうなるのかというと、やっぱり第２期教育大綱で示している基礎的な目標とか５つの力の指標は必然として上がってくるのかなと思うのですが、ただＩＣＴを使ってどうなったかというところを突っ込んでまた校長会と相談しながらやっていきたいと今は考えています。

以上です。

○市長　はい。今の教育長の意見、補足される方はいらっしゃいます。校長会もそうですし、教育委員会の方でも結構ですが。見合っていますね。

それで、まず運動の話は、私が言っているのは、これは相対的なものですよね。コロナで若干その運動が落ちたというのは全国一緒です。全国一緒の中で、岡山市の子どもたちが全国に比べてもこの運動量が落ちている。この原因は何なのか。運動というのはやっぱり体の体力を維持していく非常に重要な要素であるわけであります。ここですぐに何かという話はなくてもいいですけれども、やはり我々はそれの反省に立たないといけないのではないかというように思います。

３点目は、授業の質が変わらないというのであったら、もう入れなければいいですよ。何十億もかけて入れていく、お金の問題じゃなくて、新しいツールをやっていくっていうのは当然何らかの変化が生じる。その変化をどう捉えていくのか。そして、その結果として何を求めていくのか。それは１年でできるかどうかは別にしても、新たな何かを求めて

いかないと、私はやる意味がないというように思います。ちょっときつい言い方になりましたけれども、何か議論があれば。

じゃあ、このあたりで髙瀬さんに。

○髙瀬教授　最後に市長さんがおっしゃったように、授業の質が変わらないんであればそんなに何もお金をかけることもないし、頑張ることはないとは思うので、変わるところはどこなのかっていったところはやっぱり示したほうがいいと思います。それが基本的には定量的なものになるのだろうなとは思います。

前回ちらっと申し上げたのが、不登校とかっていう実際に現れない成果があるのだけど、なかなか先生たちの頑張りが出ないのだけど途中は何なのだろうか、どんな指標があるかとなったのですけど、今回の資料２のところで、下に目標達成に向けてということで、協力して取り組んだことがうれしいというところが出ていて、これがあるとやっぱり子どもたちも参加するということになるし、ここの部分が上がっていくといったところは指標にならなければいけないのではないかな、途中の指標にならなければいけないのではないかなって思います。この指標が、そのＩＣＴを使って授業をすることで協力して取り組んだことがうれしいという子どもたちが増えていっていれば、それは授業の質が変わっているのではないかなと思います、私は。だから、そのこと、今はふわんと話していますけど、何か教育委員会さんのほうでも、こういう授業をやるのだからっていうことを明確にしていただいて、だから協力して取り組んだことがうれしいというところが上がりますよっていうふうにしてやっていかれたらいいのではないかなと思います。

教育委員の皆さんからも、ＩＣＴを使うと何かちょっと効率化とか人の生身のつながりっていうのが薄れるのではないかとご心配な部分も出たと思うのですけど、岡山市の場合はＩＣＴを使うことで協力して取り組んだことがうれしい子どもが増えていっていると言っていただけると納得できるような気がします。だから、それはやっぱり授業の質が変わっていることだと思います。

市長からもう一つあったのは、最初にあった学校のチーム力をというところで、１期はそうだったなと私も思い出していたというか、大綱とかを見たときに私もどういう意味かなといろいろ考えて思っていたのですけれども、やっぱり校長先生が週２回行ったとか、それを100％するのはいいことだと思うのですけど、それだけではなくて困っている先生がどれだけ話ができたかのほうが重要だと思います。ですから、校長先生は、学校でこの先生と話してごらんよとか、こういった先生にはやっていいよっていうふうにできたかど

うかが校長先生の100％で、実際には困ったら、本当は困ってなくてもなんですけど、一緒に誰かと先生たちも協力してやれたよという部分の指標ですよね。教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たったと回答した校長の割合とかありますけど、それに近いような数字を定量的に出していけばいいのかなと思いました。

先ほど風土っていう言葉も出たと思うのですけど、考えてみたら校長先生と若い先生で比べたら、校長先生ってもしかしたら怖い存在かもしれないとちょっと思うと、やっぱりこの先生には話せるなというのはまたあると思うので。怖い人は急に優しくなれないので、校長先生も。それこそチームでやるというようなところを校長先生にやっていただけるといいかなと。対話するというのは、やっぱり自分のしんどいですとか困っていますというのを打ち明けられないとスタートしないので、何かそこの部分が分かるような指標、聞き方っていうのは少し変えられてもいいのかなと思いました。校長先生が全部行く、行くのはとてもいいですし、校長先生が授業を見ているから話ができるというのはあるとは思うのですけど、何か聞きたいところはもうちょっとあるのではないかなという感じがしました。

○市長　両校長は我々が見ても全く怖くない、非常に気さくにお話をしていただける方だと思います。

ちょっと異論を言うようですけど、髙瀬先生、困っている人がどういうアクセスをするかは当然大きいですよね。だから、逆からのアプローチがあると思うのですけど、第１期のときに議論したのは、自分が困っているかどうかも分からない。

授業をしたことがない。最初は困るけど、まあこのくらいでいいみたいになってしまうところがあって、それはＡさん、Ｂさん、Ｃさんがそうならば、この怖い校長さんが行くことによって、Ｂさん、Ｃさんはこうやっているから、Ａさんもこっちのほうがいいよみたいな話ができるというか。だから、Ａさんが悩んでいたらそれは非常に分かりやすいけど、悩まないというのも結構あって、要は接触していないというのがあって、そういう意味では僕はすばらしいと思います、実施率100％というのは。これは教育委員会、各校長さん方の力の入れ方っていうのが出てきて、それは教育長が言われたように、ちょっとそれが形骸化している雰囲気がある。形骸化をどうやって変えていくかというのが、別方向からの議論もそうですが、校長さんから見た場合のこのものの捉え方っていうのも私は議論していただいたほうがいいのではないかなという気はしますけどね。

○髙瀬教授　そういう意識を高めていくということであれば、校長先生がそういう意識に

なっていくというのはすごく大事だと思います。結局何も見てないのに校長先生が、「ちゃんとやっているのか」と言われたら嫌だけど、授業を見ていて、「あれいいの」という話になると、やっぱり話が始まるっていうことですよね。そういった意味であれば、ぜひ校長先生が学校を回るということをしていることは大きな岡山の特色になってくると思います。

○市長　両校長さんが行くと、うまくいきますが。

　島田さん、お願いします。

○島田教育次長　はい、教育次長でございます。

　本当に今の議論にありますように、校長先生方が回っている中で授業を見て気になったところはお話をされていると思うのですけれども、一方でご本人は、校長先生が見られた中ではそこまでの課題という把握とご本人の課題という把握の部分に差があるのではないかと。そこはやはりコミュニケーションを通して縮めていくことによって縮まっていく部分があると思いますので、これはまた校長先生方にはきめ細やかな質の向上も含めて、教育委員会としてお話をしていきたいなと思っております。

○市長　はい、よろしくお願いします。

　１期からやってきた植山さん。

○植山部長　失礼いたします。

　学校のチーム力という話では、先ほどの平井校長先生、溝手校長先生にプレゼンしていただいた写真は、校長先生がご自身で撮ってくださったものです。毎日では難しいですけど、学校の中で全ての授業を見ることができるのは管理職しかおりませんので、校長先生がしっかり見ていただくというところは、先ほどの参考資料３の④のデータでは何もしなかった校長先生はおられないのですが、即効性という意味ではちょっと弱い部分もあったのかなというところでバージョンアップというワードを入れさせていただきました。

　それから、運動量のところでは、先ほど教育長が言われたモデル校で日常的な運動を実施している学校何校かのうち、日常的な運動時間が増えている学校があるのですが、そこが体力に結びついているかというと、まだまだそこがなかなか難しいので、そこは保体課と一緒に考えていこうと思っているところです。

　それから、先ほどの端末を活用して授業のところですが、実は先ほど髙瀬先生が言ってくださった大綱で２つの基礎的な目標と４つの力の指標というのがあるのですけれども、そこを我々は令和７年までにしっかり上げていこうという中で、参考資料の１ですが、実

は基礎としての２つの目標のうち、全国学力・学習状況調査の偏差値50以上というのを目標にしている、この平均レベル以上の学力というものはついていますが、右下のグラフを見ていただくと、子どもたちが探求的な学習をしていると感じる割合が未達成で、全国より少し低い状況にあります。探求的な学習が充実していくと恐らく、子どもたちは徐々に記述式問題の正答率上がっているのですが、探究的な学習を充実することによって、さらに子どもたちが社会に出たときに必要となる力を付けていくという意味で正答率は見ていきたいなと考えています。

以上でございます。

○市長　ありがとうございました。何か直接指名したように見えますけど、島田さんと植山さんはいつもあのような議論をしていますので、このようにさせていただきました。

○教育長　市長、いいですか。

○市長　はい、どうぞ。

○教育長　ＩＣＴを使って、ここの資料３のところに弱さに切り込むっていうのがあるので、今日別に結論を出そうとは思ってないですけど、探究、関わり、つながり、主体性とあって、今植山さんが言ったように、探究の部分はやっぱり欠けているというのはあると思います、子どもたちに。それを見るのであれば確かに参考資料の１の探究的な学習をしていると感じる子どもの割合というのは使えるのかなと思ったり、それから主体性の部分で、誰にもあまり見られずに自分の意見を書けるとか、自分で考えを出せるという経験があると主体性が増すのではないかなと思います。そのときに記述式問題の正答率が上がるのではないか思うところで、それが上がったら、ひょっとしたら端末を使って主体性が増したのかなと思います。そうしたら、残りの関わり、つながりのところなんですけど、そこは髙瀬先生が言われた協力して取り組んだことがうれしいっていう数字が上がってくれば。これって私も市長と大分議論する中で思い出したのですけど、ここの部分は学校の授業とも関連があって、学校に行くのが楽しいとも関連があって、結構この協力して取り組んだことがうれしいという指標はいろいろ関連があります。その中でやっぱり関わり、つながりが増したかどうかいうのは見ることができると思っています。

市長に一回お答えしたのが、公教育で何だよっていう問いがありまして、やっぱり協働的な学びのところが公教育、全部それに集約したらいけないのですが、そこを大事にすることが公教育ですかねというやり取りをしたことがありましたので、修正します。

○市長　ありがとうございました。

今教育長から話があったように、我々がやろうとするものが一体何に結びついていくのかという議論がすごい重要なのではないかなというように思います。今は探究という言葉から、無回答率を少なくしようと。無回答率というのは岡山の子どもたちが非常に多い、相対的に多いという数字が出てきているので、全体の学力が向上したとしても無回答率はまだまだ。ここが変わってくれば、要は考えてるかな、探究心が出てくるかなっていうようなことにもつながっているのではないかなと思います。

４人の教育委員の皆様方ないしは校長会の方々、今の議論を聞かれて何かあればお願いいたします。

はい、どうぞ。

○門原教育委員　余談なことなのかもしれないのですけど、校長先生方が見てくださったときに、教員が自己目標シートを書くときがありますよね。中間面談とか最終面談とかされるときにそこを活用して、授業を見たときにあなたの授業はこういうところが少し足りないのではないかとか、こういうところを心配しているというところについて、そこは時間が取れるので、しっかり話し合っていただいて、またそれが中間面談のときにどれぐらい達成できたかとか、先生方も自分を振り返るときのリーダーは校長先生にしていただくと、学校を回られたことも生きていくし、しっかり時間の中で振り返りもできるし、もちろんされていると思うのですけど、そこをうまく活用されるとよいのかな、あえて時間をつくらなくてよいのかなと思いました。

○市長　はい、ありがとうございます。

どうですか、ほかの方は。どうぞ。

○石井教育委員　校長先生が回っている目的に、第１期のときに若い先生方がたくさん入ってきてというのを市長がおっしゃって、確かにそうだったなと思い出したのですけれども、今度はＩＣＴの問題が入ってきたときに、相対的に見たら若い先生方が活躍する場面が増えてきているという意味で言うと、若い先生のほうが分かっている。相対的に上に行くと何が分からないのか分からないということが起こっている可能性があると思っていまして、何かある意味その局面においては逆転現象が起こっていて、そのことをうまく活用して全体がより良くなる方法っていうのがあるのかなと感じました。

○市長　何が分からないかが分からない。おっしゃるとおりです。

上西さんどうぞ。

○上西教育委員　まず、ＩＣＴを活用してどう良くなっているかをどう定量化するかです

けど、私は「授業が分かりやすくて楽しい」というところ、もうシンプルにそこの数字が上がってこないかなと思っています。今の子はやっぱりデジタルになじんでいるし、ユーチューブとかすごい見たりしていますし、画像とか動画とかをうまく使うことによってすごく楽しんでくれるのではないかというところもあります。もちろん教育効果を前提ですけども、ＩＣＴを使ってどうやったら分かりやすくなるのかと、どうやったら子どもたちが興味を持ってくれるのかというところをやっぱり工夫をしていただいて、いろいろ情報共有をしていけば、これは非常に有益なのではないかと、お金をかける価値があると私は思っています。

もう一個、運動の話ですけど、私の娘が中学校、小学校にいるのですけど、運動が駄目なのです。運動できる子、勉強もそうですけど、できる子は放っておいてもいいわけです。放っておいても動き回りますから。結局苦手な子をどう運動させて体力を上げるかというのは重要で、体育とかでもっと工夫できるのではないかと私は感じていて、岡山がなぜ数値が悪いのか全く分からないですけど、ほかの県とかでやっている授業と比較されているのかどうかとか、例えばうちの子は球技が駄目なのです。小学校高学年と中学生ですけど、体育がもう楽しくないと。何かというと、球技で同じコートに体力のある男の子と一緒に入って、もう邪魔者扱いされると。だから、もうやる気も起きない。その部分は、工夫できるのではないかと思っていて、男、女を分けるのかどうかとかいう問題もあると思うのですけど、さっき私がマット運動の話を出したのは、できない子でも自分ができるようになる姿を見たらうれしいはずです。ただ、球技とか、もちろん球技もいいですけど、もう30分ぐらい何もできないまま過ごしている子って結構いると思います。これをどうやったらいいのか私もいい答えがないですけど、ダンスを増やすとかでもいいのかもしれないし、何かまだ私、見ていて工夫の余地がある気がしました。ここは私、何の球技をしないといけないかとか決まっているのか分からないですけど、何か先生のやり方によってまだまだ工夫ができる余地が実は体育にはあるのではないかと私は思っています。

以上です。

○市長　１点目は特に、皆さんが授業になじむというのは、それがこういう公の義務教育においては非常に重要であるというのはおっしゃるとおりだと思います。

後段は、三宅さん、体育の先生ではなかった。

○教育長　体育でした。私も小学校ですけど、中学校の体育は男女分けたり、結構専門的にいけますよね。

○溝手中学校長会長　いきます。

○教育長　小学校のほうは、やはり工夫しています。ですから、いろんな場づくりとか、高跳びなんかも何か数値があって、自分の目標値とほかの高さとを比べられるような指標を変えたりして、それから狙い幅跳びといって、踏み切る場所を変えて、どちらの方が跳ぶことができたかみたいな。それから、チームプレーでいくと、やっぱり作戦を考える中でこの子はこのゴール下にいてもらおうとか、個々の役割を決めてやったりしていると思います。平井校長も体育ですので、後で多分いい答えが出ると思います。中学校は専門的になり過ぎて、ドリブルをどうしたとか、シュート、ジャンプシュートとかそのあたりに、確かに上西委員が言うように、専門的に急に入り過ぎていて、苦手な子が入る余地がないのは確かかもしれないけど、ちょっとそこはまた中学校の部分と小学校と議論を今度しないといけないなと思っています。

○市長　どうぞ。

○平井小学校長会長　専門は体育です。球技は、もうとにかく子どもが面白いって思わないと全然駄目だと思います。面白いって思うには、例えばボールに触れるとか、自分が一定の役割を果たすとか、サッカーをするのなら縦に何本か下線を引いて、この線の中では１対１で勝負するというと、ほとんどの子が活躍できる場面があったり、自分がパスできたり、斜めにだったらパスできますからシュートが打てたり、そういうようなことを工夫することが大事だと。教育長さんが言われたとおりだと思います。そういうことを積み重ねていくのが大事かなと思います。

　それと、私は自ら考え主体的に行動できる子どもをつくりたいと常々思っていまして、先ほど石井委員さんが言われた自ら考え行動できる子ども、そのためには先生が自ら考え主体的に行動できないとよりよい授業づくりはできないと考えています。そのためにどうするかっていうことですけれども、まずは自分の課題を見つけるよりも、いい授業を見るということが大切だと思っています。校内のここでいい授業があるよと、芳泉小学校では割と年がら年中公開授業をやっていますからそれを見るとか、そうしたら自分がそんな授業をしてみたいなと自ら考えて主体的に行動できるようになる。そういうことも大切なのではないかなと思います。

　それと、最近学校指導課とタイアップして、より良い授業のビデオをつくりました。ビデオをつくって、授業を見に行く間がない本校の職員に見せる。岡山市内の全ての教員に配ってくださったと聞いているので、そういうのも一つ大きな授業づくりの参考かなと思

います。

以上です。

○溝手中学校長会長　中学校の特に体育のことでどんな工夫をしているかということ。体育の授業もよく見に行くのですけど、やっぱり得意、不得意が一目瞭然だったりするので子どもたちが嫌がるかなと思うのですけど、特に球技とかでは作戦を考えようとかいう時間をかなり取っています。割と今までは競技する時間とかが多かったですけど、やっぱり力の差もあるので、教員は工夫をして、例えば複数のクラスで複数の先生が違う競技で同じ時間をやるとか、その中でどんな作戦を立てるかとかいうようなこと、割と話合いの時間も多くて、そういう意味ではかなり作戦を立てて、こうやったらうまくいくよとかいうようなことはやっているかなと思います。

それから、もう一つ、校長が見て回ると。本校では同じ教科の先生は同じ教科の時間を見に行こうということで、その先輩、後輩とかで授業力を上げたりする中で、その結果が私のとこへ上がってきたり、僕が見て回る中でこうだったけどどうとかいう声をかけるというようなことをやっています。そういう学校が多いと思っています。

以上です。

○市長　はい、ありがとうございます。

片山さん、よろしく。

○片山教育委員　失礼します。

いろいろ伺っていて、勉強になりました。

最後、人を大切にできる状況ということで、先ほど見せてくださった動画の中にこども園の子どもたちのためにおもちゃを作るっていうのがあったと思うけれども、異年齢だったり違う校種だったり、そういった人と関わることができるのもやっぱりＩＣＴの力かなと思うと、そういう異年齢だったり異文化だったり、いろんなＩＣＴの活用によって、日頃は直接触れ合えないけれども画面越しだけれども触れ合えたりっていうところで、人を大切にできるとかそういった気持ちとか、人に優しくとか困っている人を助けるというのがちょっと下がっていたと思うのですけれども、そういったところにもまた間接的に何か力が働く部分があるのではないかなと感じました。

以上です。

○市長　はい、ありがとうございます。

そろそろ時間でございますので、何か最後に一言という方がおられますでしょうか。よ

ろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○市長　今年度もこの総合教育会議を何度かやらせていただいて、その都度幾つかのテーマで議論がなされました。今日も、このＩＣＴほか、結構有意義な議論ができているのではないかなと思います。ただ、議論をしただけでは全く意味がない。また、４月には人事異動もあるわけでありまして、この成果をどのように、来年度の岡山市の義務教育に適用していくのかということが重要なのではないかなと思います。したがって、次の校長会が４月にありますよね。

○教育長　あります。

○市長　そこで１年間我々がこんな議論をして、こういったことをやっていただきたいというのをちょっと整理するということが重要ではないかなと思っています。今日の話を踏まえていただいて、来年度の岡山市の教育の方針とまでいかなくても、こういう方向で我々は考えていこうという点をちょっと整理しといていただけますでしょうか。島田さん、よろしいでしょうか。

○島田教育次長　はい、承知しました。

○市長　ありがとうございます。総務局長も同じで、よろしくお願いいたします。

そういうことで、取りあえずの成果は４月の校長会に出させてもらうと。もっと言えば、第３期の大綱に向けての議論も併せてやらせていただきたいと思いますが、ということで本日の協議はこれまでとさせていただきます。

事務局に進行を戻します。

○司会　ありがとうございました。

次回の会議は、改めて通知させていただきます。

以上で令和５年度第３回総合教育会議を閉会いたします。

本日はどうもお疲れさまでございました。

午後４時52分　閉会